

第3章 計画の基本目標と基本方針

1 計画の基本目標

急速に進む高齢化に伴い、高齢者が住みなれた地域や家において、健康で、元気に暮らすことができるよう、地域全体で高齢者の自立生活を支えていく環境づくりが求められています。また、高齢者が自らの経験や知識を活かして地域社会を支えていくことが重要になってきます。

第3次鎌倉市総合計画第2期基本計画の健康福祉分野では、「すべての市民は社会の一員として尊重され、生涯にわたり、健やかで安心した生活が送れるよう望んでいます。このため、健康福祉の環境づくりを進め、だれもが生きがいをもち、ともに支えあい、心ふれあう豊かな地域社会をつくりだしていきます。」として、将来都市像「健やかで心豊かに暮らせるまち。健康で生きがいにみちた福祉のまちづくりをめざします。」を定めています。

この鎌倉市総合計画の将来都市像との調和や、市民参加の健康福祉、地域生活の支援サービス、健康と安心づくり、福祉のまちづくりの方針も取り入れ、次期高齢者保健福祉計画では、前期の基本目標を継承し、超高齢社会に入っている鎌倉市の平成24年度から26年度における本計画の基本目標を

「住みなれたまちで元気に暮らし続けるために、ともに支え合う地域づくりを目指して」とします。

2 計画の基本方針

基本方針は、基本目標を実現していくための計画全体の骨組みとなります。

また、それぞれの基本方針のもとに、基本方針達成のための事業を策定し、実現に向けた取組みを推進していきます。

基本方針1 いつまでも安心して元気で暮らせる地域づくりの推進

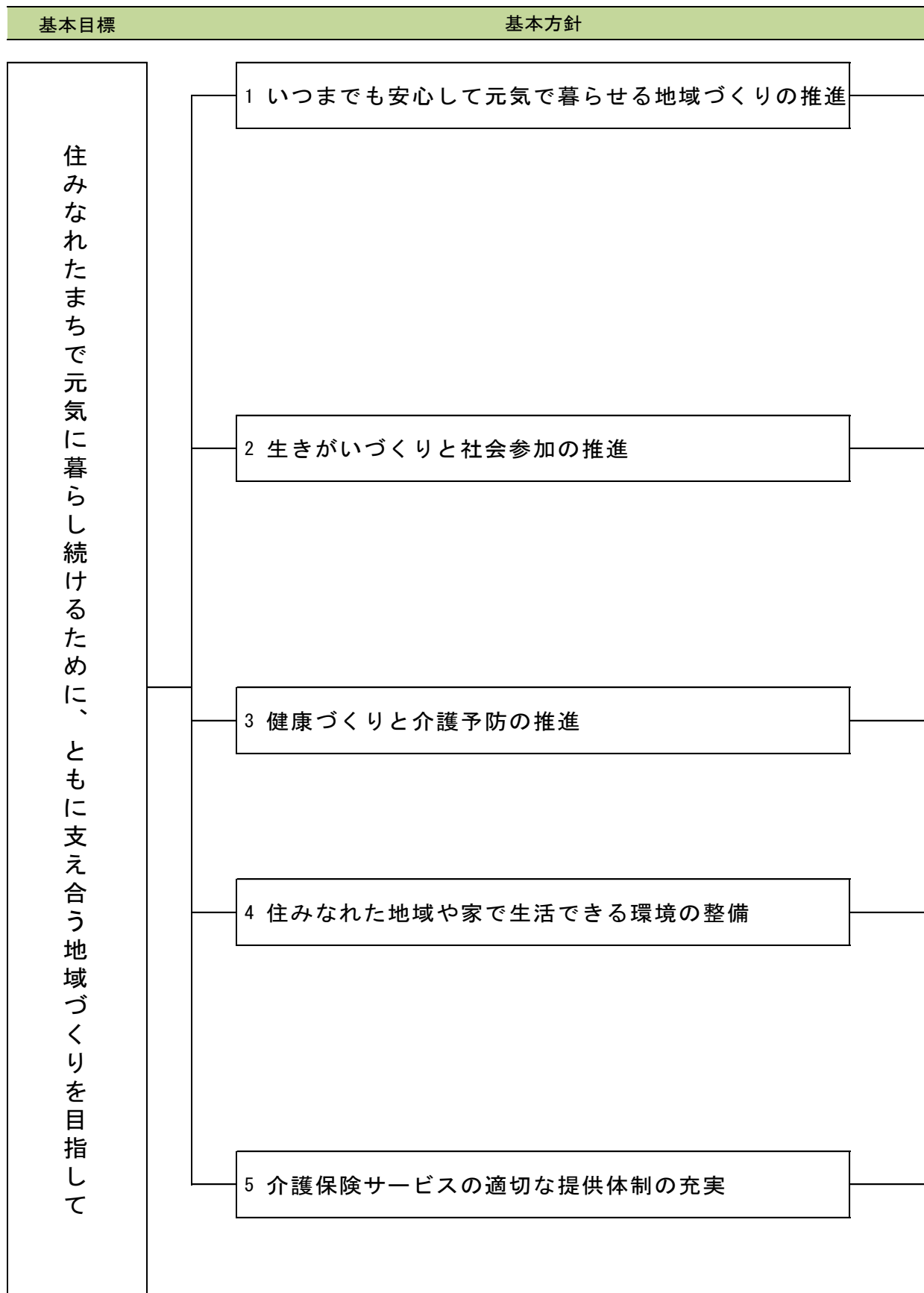
基本方針2 生きがいづくりと社会参加の推進

基本方針3 健康づくりと介護予防の推進

基本方針4 住みなれた地域や家で生活できる環境の整備

基本方針5 介護保険サービスの適切な提供体制の充実

3 高齢者保健福祉計画の体系



主要施策		施策の方向性
1-1 地域包括ケアシステムの構築 ※		(1)地域ケア体制の充実、(2)地域包括支援センターの機能の充実、(3)NPO・ボランティア団体との協働・連携、(4)地域での支え合い活動の推進、(5)見守り体制の充実
	1-2 高齢者の尊厳を守る取組みの推進 ※	(1)認知症高齢者への支援施策の充実、(2)高齢者虐待防止対策の推進、(3)成年後見制度の利用促進、(4)福祉教育の推進
	1-3 在宅生活支援サービスの充実	(1)高齢者の在宅生活の支援、(2)介護者への支援
	1-4 医療との連携強化	(1)医療と介護の連携強化の推進、(2)医療系サービスの充実強化
2-1 生きがいづくりへの支援		(1)シルバー人材センターを活用した就労機会の充実、(2)生涯学習の推進、(3)いきいき事業の推進
	2-2 社会参加・社会貢献活動への支援	(1)老人クラブの充実、(2)ボランティア活動参加の促進、(3)地域活動団体への支援、(4)世代間交流の促進
	2-3 地域活動の拠点づくりの推進	(1)老人福祉センターの充実
3-1 健康づくり事業の推進		(1)健康に関する普及啓発、(2)生活習慣病予防と疾病の早期発見
	3-2 地域支援事業による介護予防の推進	(1)介護予防事業の拡充、(2)介護（予防）事業の充実、(3)介護予防に関する普及啓発
4-1 安全・安心な生活環境の確保		(1)高齢者向け住宅の整備、(2)介護保険施設等の整備、(3)その他の施設サービス
	4-2 高齢者にやさしいまちづくりの推進	(1)買い物支援サービス等の情報提供、(2)移動サービスの充実
	4-3 防犯・防災体制の整備	(1)消費者相談の充実、(2)災害時における支援体制の充実、(3)防犯情報の提供等
5-1 介護保険給付サービスの充実		(1)介護（予防）サービスの充実、(2)地域密着型サービスの充実、(3)介護予防・日常生活支援総合事業の推進
	5-2 介護保険制度の適切な運営の確保	(1)介護保険サービスの質の確保と人材養成、(2)介護給付適正化の推進

※は重点施策として取り組む主要施策です。

（１）基本方針１

いつまでも安心して元気で暮らせる地域づくりの推進

市で行った高齢者保健福祉に関するアンケート調査において、73.9%の人が積極的に外出し、85%の人が栄養バランスのとれた食事をとっている等、運動や食事を通して健康で活動的な生活を送っていることがうかがえます。

健康で安心して暮らす生活が住み慣れた家でいつまでもできるよう、日常生活や在宅生活への支援サービスを提供します。

また、今後市に求める施策として、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯と介護者への援助、介護保険及び介護保険外サービスの充実があげられており、その推進が必要です。

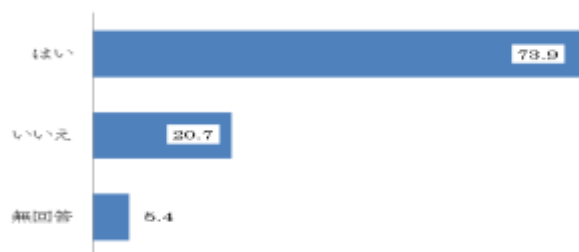
いつまでも、その人らしく尊厳をもって暮らせるよう、地域の見守り体制の充実、成年後見制度利用の促進を図るとともに、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく提供されるよう包括的な支援を推進します。

【主要施策】

- 1－1 地域包括ケアシステムの構築【重点施策１】
- 1－2 高齢者の尊厳を守る取組みの推進【重点施策２】
- 1－3 在宅生活支援サービスの充実
- 1－4 医療との連携強化

【高齢者保健福祉に関するアンケート調査】

○ 積極的な外出について



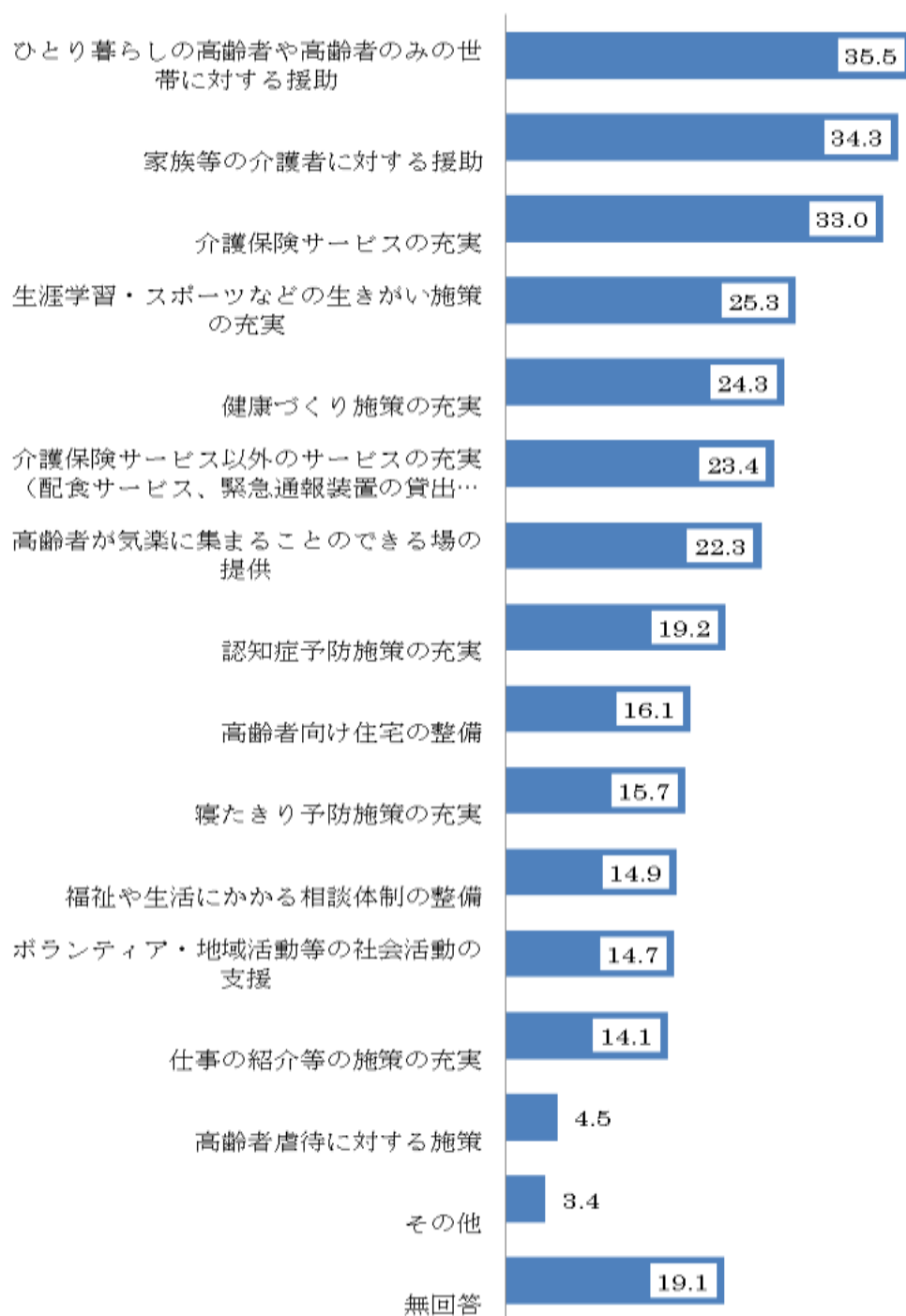
「積極的に外出している」73.9%、「積極的にには外出していない」20.7%となっています。

○ 栄養バランスのとれた食事をとっていることについて



「栄養バランスのとれた食事をとっている」85.0%、「栄養バランスのとれた食事をとっていない」9.3%となっています。

○ 充実を望む市の高齢者施策



「ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯に対する援助」が 35.5%と最も多く、「家族等の介護者に対する援助」(34.3%)や「介護保険サービスの充実」(33.0%)が僅差で続いています。

（２）基本方針２　生きがいくりと社会参加の推進

市で行った高齢者保健福祉に関するアンケート調査の結果では、「趣味の活動」を行っている、「仕事」を持っているなど、多くの人が何かしら社会との接点があり、「特にない」という人はわずか４．４％に過ぎませんでした。さらに、「ほとんど毎日外出している」、という人は５９．８％で、「週１回以上は外出している」という人も含めると、９５．５％に達します。

このように暮らしていくうえでの目的を持ち続けていけるよう、就労機会の充実や生涯学習・いきいき事業の推進に努め、生きがいくりを支援します。

さらに、社会とのつながりや様々な活動を持続していけるよう、老人クラブの充実や地域活動団体などに協力することで、社会参加・社会貢献活動を支援します。

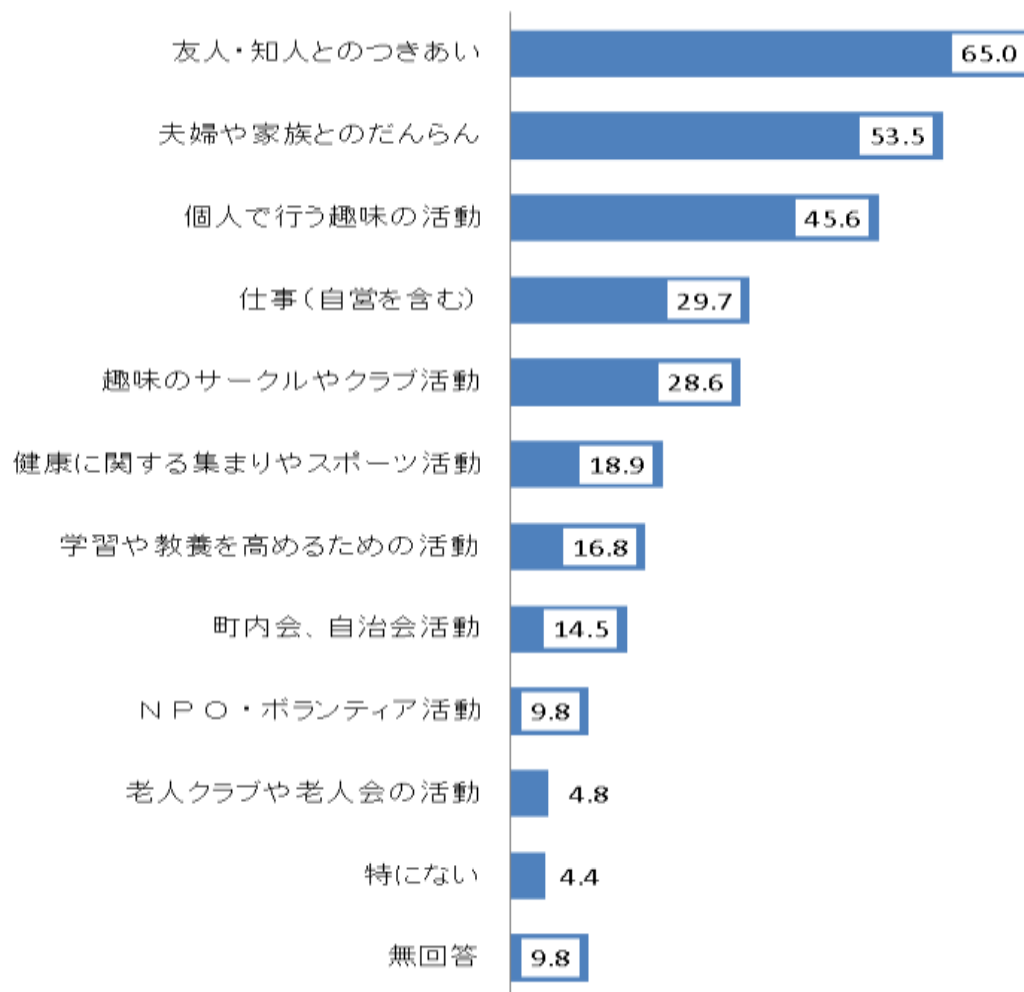
また、生きがいくりや社会参加など活動を支える場の提供として、老人福祉センターやシルバー人材センターの充実を図り、地域活動の拠点づくりを推進します。

【主要施策】

- ２－１　生きがいくりへの支援
- ２－２　社会参加・社会貢献活動への支援
- ２－３　地域活動の拠点づくりの推進

【高齢者保健福祉に関するアンケート調査】

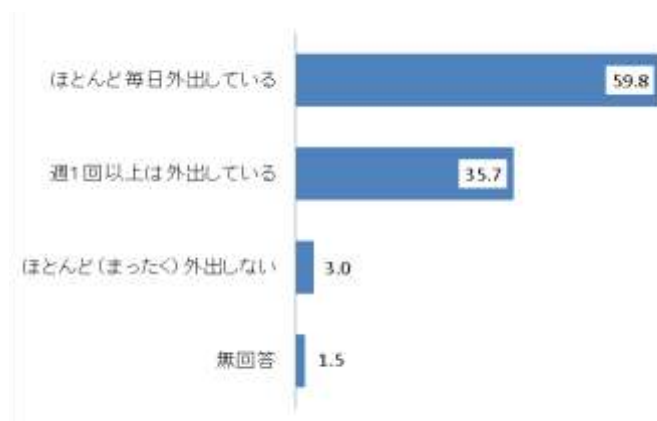
○ 日常生活で現在行っていることについて



「友人・知人とのつきあい」が 65.0%と最も多く、「夫婦や家族とのだんらん」(53.5%) 個人で行う趣味の活動 (45.6%) 仕事 (29.7%) 「趣味のサークルやクラブ活動」(28.6%) と続いています。

○ 外出の機会について

「ほとんど毎日外出している」が 59.8%で、「週 1 回以上外出している」は 35.7%となっています。
「ほとんど(全く)外出しない」は 3.0%となっています。



（３）基本方針３ 健康づくりと介護予防の推進

市で行った高齢者保健福祉に関するアンケート調査において、８２．５％の人が「健康である」「おおむね健康である」と答えています。いつまでも心身の健康を維持し、生きがいを持って生活できるように、「自分の健康は、自分で守る」という意識の向上を図り、食育事業や生涯学習事業等との連携を図りながら、高齢者の主体的な健康づくりの支援を行います。

そして、同アンケート調査の中で約半数の人が「健康のことで気になること」として挙げている「生活習慣病」については、特定健診や後期高齢者健診、各種がん検診を実施し、その予防や早期発見に努めます。

さらに、要介護状態にならないで、いつまでもいきいきと暮らせるように、介護予防事業を推進します。今回のアンケート調査では、教室の内容によっては参加したい人が６割を占めるため、今後も介護予防教室の周知・啓発や、より参加しやすい内容の工夫や充実に努めます。

また、ともに支え合う地域づくりのために、市、自治会・町内会、民生委員児童委員、地域包括支援センター、ＮＰＯ、市社会福祉協議会等が相互に連携、協力できるネットワークづくりを支援するとともに、高齢者を地域全体で支えていくための支援体制の充実に努め、ボランティア団体や市民活動団体等の育成と活動支援を行うことで、高齢者の健康づくりと介護予防を推進します。

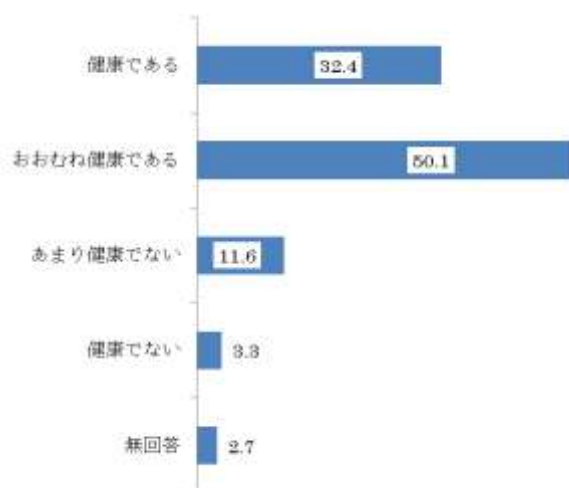
【主要施策】

３－１ 健康づくり事業の推進

３－２ 地域支援事業による介護予防の推進

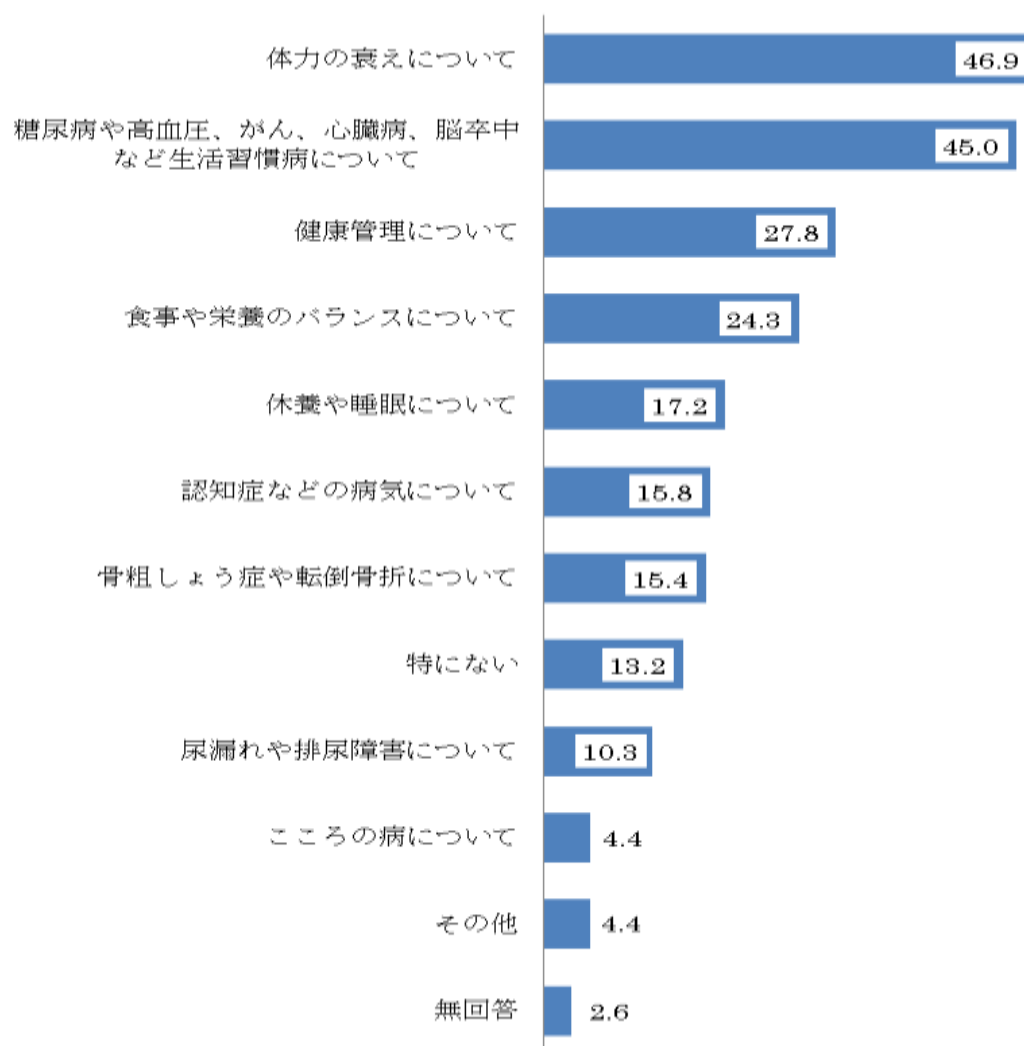
【高齢者保健福祉に関するアンケート調査】

○ 健康状態について



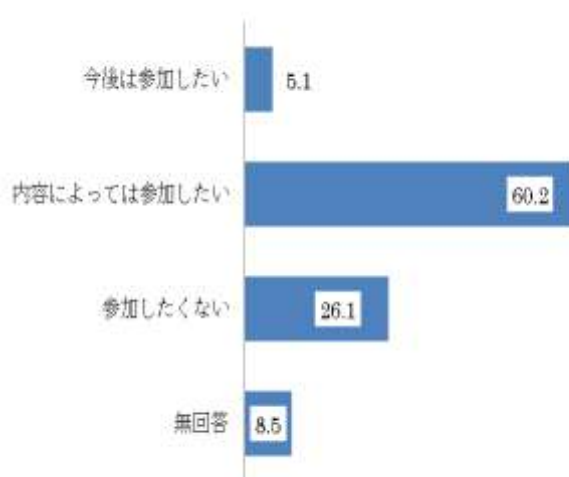
「健康である」、「おおむね健康である」の計は、82.5%となっています。
「あまり健康でない」、「健康でない」と健康に不安を感じている高齢者は14.9%となっています。

○ 健康で気になることについて



加齢による「体力の衰え」(46.9%)や「生活習慣病」(45.0%)が気になることとして多くなっています。一方で、「食事や栄養のバランス」(24.3%)や「休養や睡眠」(17.2%)など主体的な健康づくりに関心があることがうかがえます。

○ 予防教室への参加について



「今後は参加したい」(5.1%)と「内容によっては参加したい」(60.2%)によりおおむね高齢者の3人に2人が予防教室に関心を持っていますが、「参加したくない」(26.1%)と4人に1人は関心がないことがうかがえます。

（４）基本方針４ 住みなれた地域や家で生活できる環境の整備

住みなれた地域で安心して暮らすことは、高齢者が元気で健康に暮らしていくための基礎になります。市で行った高齢者保健福祉に関するアンケート調査において、82.7%の人が今現在の住まいにずっと住み続けたいと回答しており、その理由として、多くの人が住みなれた環境であることをあげています。

安心して暮らすことのできる住環境のために、住宅担当部門と連携して、高齢者向けの住宅施策を進めるとともに、道路交通担当部門とも連携して快適で使いやすい歩道の整備や利用者に配慮した移動サービスの充実を目指します。

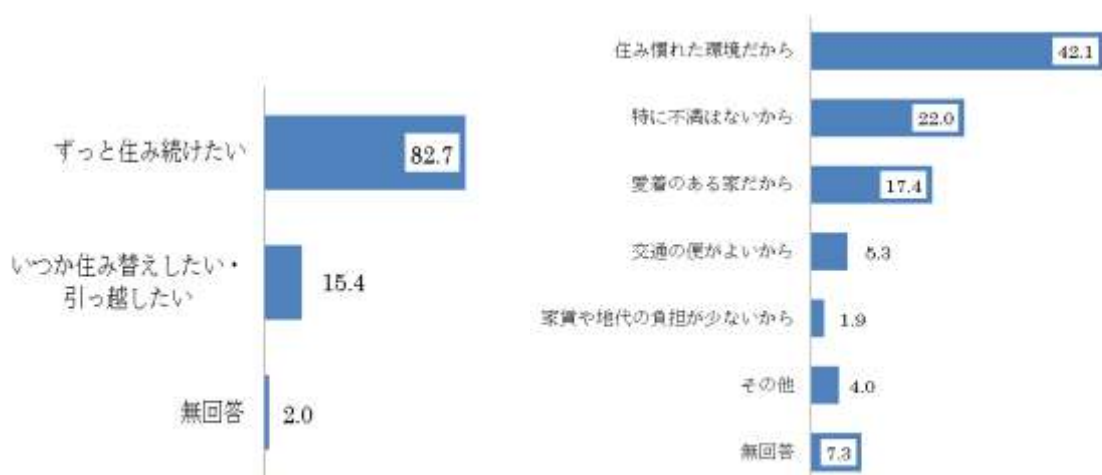
また、身近に医療や介護に関する必要なサービスがあれば、安心感は一層高まります。介護保険施設等の整備についても、防犯・防災体制と併せて、担当部門との連携を図りながら進めます。

【主要施策】

- 4－1 安全・安心な生活環境の確保
- 4－2 高齢者にやさしいまちづくりの推進
- 4－3 防犯・防災体制の整備

【高齢者保健福祉に関するアンケート調査】

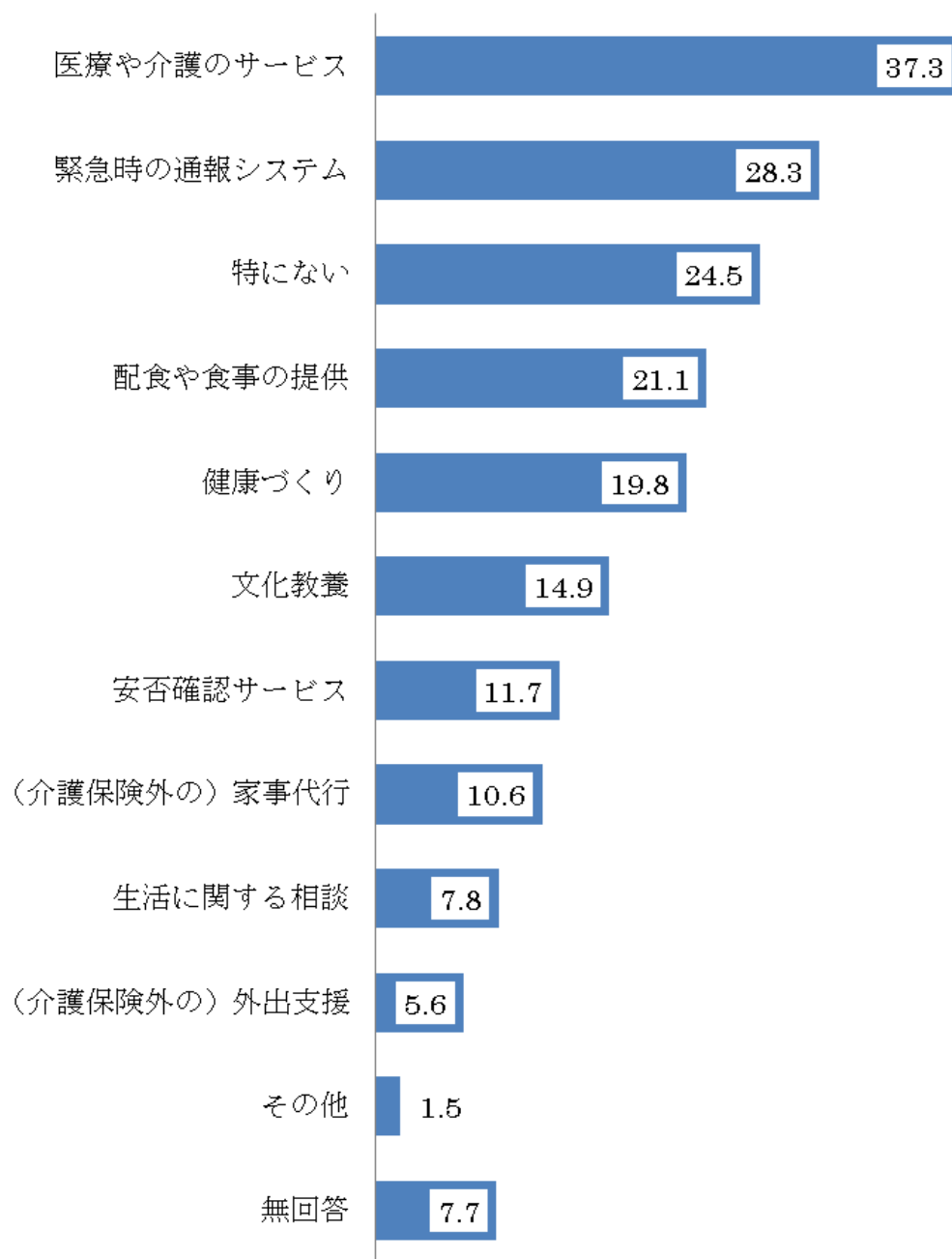
○ 今の自宅に住み続けることについて ○ 住み続けたい理由について



「ずっと住み続けたい」(82.7%)、「いつか住み替えしたい・引っ越したい」(15.4%)となっています。

「住み慣れた環境」(42.1%)、「特に不満なし」(22.0%)「愛着がある」(17.4%)の計81.5%の高齢者が自宅や住環境に満足していることがうかがえます。

○ 身近にあればよいサービスについて



「医療や介護のサービス」が 37.3%と最も多く、「緊急時の通報システム」(28.3%)
「特にない」(24.5%)「配食や食事の提供」(21.1%)と続いています。

（５）基本方針５ 介護保険サービスの適切な提供体制の充実

介護保険に関するアンケート調査によれば、市に望む高齢者施策のうち、要介護認定を受けている人の３６．１％が「家族等の介護者に対する援助」を、３２．３％が「介護保険サービスの充実」を挙げています。

介護保険サービスを使いやすくするために、在宅・施設・地域密着型の各サービスについて利用者・事業者の理解を深めます。さらに、利用者やその家族に対する支援策の充実を図ります。

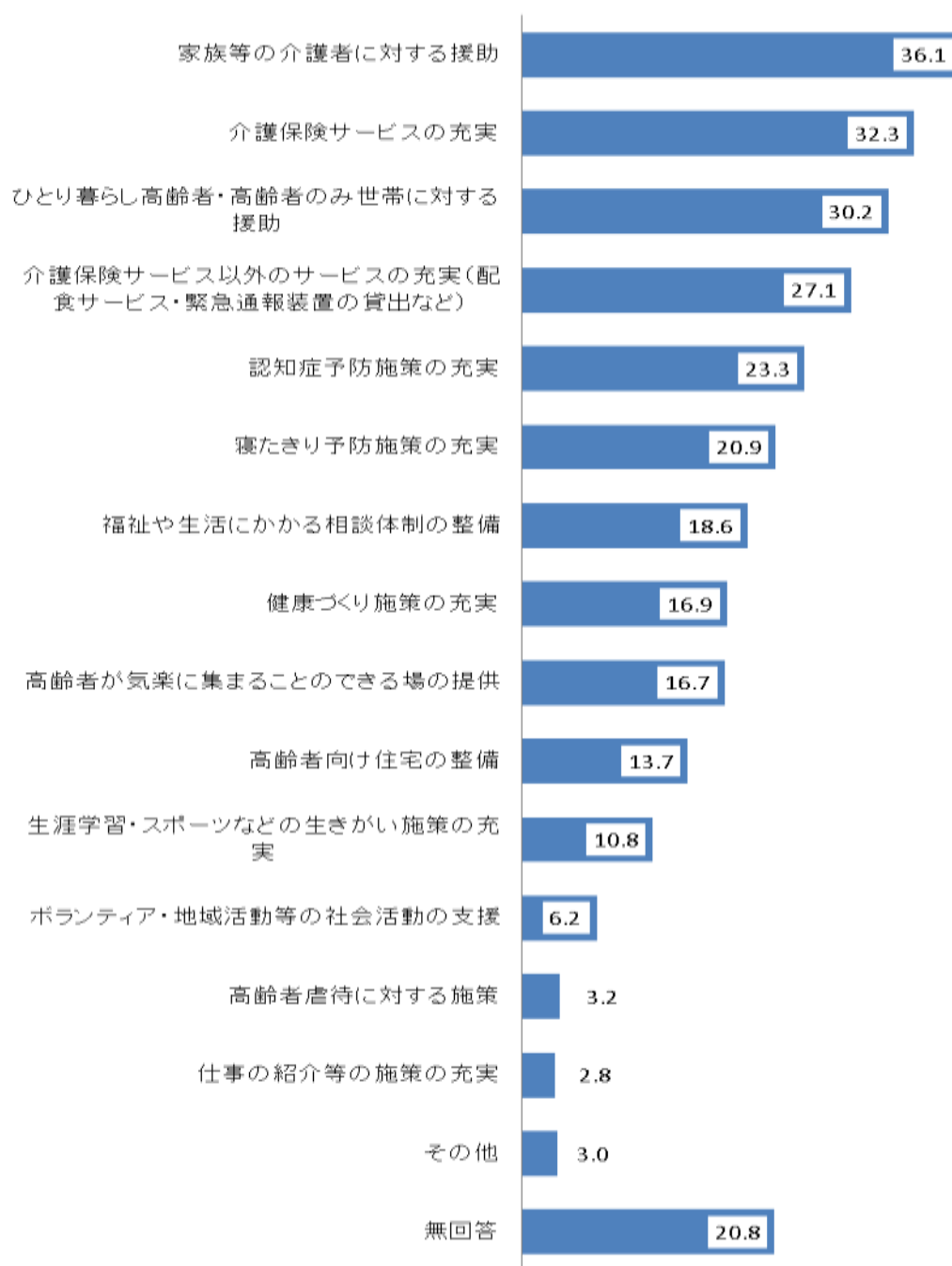
また、給付費が増加の一途をたどっている中、介護保険制度を持続的に運営していくためには、適切なサービス利用が必要になります。必要なサービスを正しく提供するには介護保険事業者の役割は大きいため、研修や指導の強化に努めます。

【主要施策】

- ５－１ 介護保険給付サービスの充実
- ５－２ 介護保険制度の適切な運営の確保

【介護保険に関するアンケート調査】

○ 充実を望む市の高齢者施策



「家族等の介護者に対する援助」が 36.1%と最も多く、「介護保険サービスの充実」(32.3%)、「ひとり暮らし高齢者・高齢者のみの世帯に対する援助」(30.2%)、「介護保険サービス以外のサービスの充実(27.1%)」と続いています。